

平成 28 年度 事業計画書

(平成 28 年 4 月 1 日より平成 29 年 3 月 31 日まで)

当財団の運営資金の大部分は、基本財産の為替連動型仕組債の利息によるもので、平成 27 年度は固定金利の債券が多く、一部早期償還による収入の減額があったものの、その後は比較的安定した財政的基盤が得られた。しかしながら、平成 28 年に入り経済状況の激しい変動がみられ、平成 28 年度の収入見通しが不確かである点を踏まえ、状況により適宜対応していく必要があると考えられる。

このような状況の中で、当財団としては、主たる事業である研究助成事業を中心として、これまで長年にわたって継続してきた粉体工学に関する講演討論会の開催、ならびに英文学術誌 KONA Powder and Particle Journal の出版により、粉体工学ならびに技術に関連した分野の啓蒙、発展に貢献していきたいと考える。特に平成 28 年度は、当財団の設立 25 周年の節目を迎え、粉体工学に関する講演討論会も第 50 回の記念大会となり、設立 25 周年特定事業の一環として特別講演等の企画を行っている。また、KONA 誌については、公共性、公益性を高めるために、オンライン学術誌データベース J-STAGE への全論文掲載に続いて、昨年度から準備を進めてきたオープンアクセス化を実現してその活用の促進を目指している。

また、一昨年に初めて海外で開催した第 1 回ホソカワ世界粉体工学シンポジウムに続き、当財団活動の国際化の一環として、KONA 賞の対象者が日本国内に限らず広く世界から推薦されるような体制作りを図っていききたい。さらに、経済状況が許せば、計画通り本年度も特定事業としての積立てを行い、平成 29 年度に第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを開催できるように準備を進める。

I. 助成関連事業

本年度は昨年度と同様に、以下の 4 つの助成事業を継続して実施する。

予算額 2,238 万円（事業管理費を含む）

1. 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞（KONA 賞）
2. 粉体工学に関する研究のための研究費助成（研究助成）
3. 粉体工学に関する研究に従事する研究者の育成の援助（研究者育成援助）
4. 粉体工学に関する研究成果公開の援助（シンポジウム等の開催援助）

KONA 賞について、長年日本人が推薦され受賞しているが、本年度は海外からも推薦を募り、グローバルベースで、粉体工学の分野において多大な貢献をされた研究者に授与できるような体制作りを図る。

II. 特定事業

当財団の設立 25 周年記念特定事業として、平成 27 年度より積立てを行い、当初は平成 28 年度に第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを開催する計画であったが、平成 28 年度は上記の通り、粉体工学に関する講演討論会が第 50 回大会となることもあり、特に著名な講師に「特別講演」を依頼して本講演討論会に組み入れ、設立 25 周年記念特定事業の一部とする。並行して、平成 29 年度に第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを開催するための準備を

進める。ただし、平成 28 年度以降の積立てについては、経済状況を鑑みて理事会等で可否の検討を図りながら状況に応じて具体的に進めて行くものとする。

予算額 150 万円（設立 25 周年記念特別事業費として積立てを行う）

1. 第 50 回粉体工学に関する講演討論会での特別講演会の開催

平成 28 年 9 月に東京で開催予定の第 50 回粉体工学に関する講演討論会において、当財団設立 25 周年記念の特別講演として、粉体工学に関連する分野で特に大きな業績を挙げられ世界的に知名度の高い講師に出講を依頼する。

2. 第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウム(2.Hosokawa International Powder Technology Symposium) の開催準備（平成 29 年度に開催予定）

当初は平成 28 年度に、第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを開催することを予定していたが、具体的な準備を検討する中で、第 50 回記念の粉体工学に関する講演討論会を国際シンポジウムとして開催することは、会の規模や聴講者の専門性などの観点から適当でないことが明らかになってきた。そこで、平成 28 年度は、本特定事業として、第 50 回粉体工学に関する講演討論会に財団設立 25 周年記念特別講演を組み入れ、第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムの開催は平成 29 年度に延期する。

III. 財団自主事業

1. 粉体工学に関する講演討論会の開催

① 予算額 471 万円

② 趣旨・内容

粉体工学の当面の重要課題を選び、第一線の研究者（5～6 名）から最近の研究成果について講演して頂き、その課題に関心をもつ研究者・技術者の参加を募集する。講演と討論を通じて粉体工学の発展に資することを目的とする。毎年 1 回、会場は大阪・東京において隔年開催を原則とする。（平成 28 年度は東京において開催の予定）

平成 28 年度は第 50 回の記念大会となるため、当財団設立 25 周年特定事業としての特別講演と組み合わせ、KONA 賞受賞者ならびに産学界から様々な分野で活躍中の講師を招いて有益な講演討論会の開催を目指す。

③ 経費および用務の分担

本講演討論会の企画については粉体技術談話会に委嘱し、そこでテーマの設定、講演者・討論の司会者の選定等を行う。参加費はすべて無料とし、講師謝礼、旅費、宿泊費およびテキスト印刷費などの予算を計上する。

2. KONA 誌の発行

① 予算額 688 万円

② 趣旨・内容

KONA 誌は当財団が年 1 回発行する粉体工学に関する英文の学術誌であり、世界中の研究者から粉体の科学及び工学に関する研究論文およびレビューを集め、これらを編集して発行し、全世界の関連する研究者、研究機関、図書館などに広く無償で配布し

ている。KONA 誌はインターネットを通じて無料でダウンロードすることもできる。平成 22 年 6 月から Journal Citation Report に KONA のインパクト・ファクターが収録されている。また、平成 25 年 12 月から科学技術振興機構(JST)が運営するオンライン学術論文データベース J-STAGE への掲載も行われている。なお、平成 27 年度に出版した No. 33(2016)の掲載論文数は 25 編、頁数は 357 頁で、1,000 部を印刷し、国内外に発送した。次号の出版については、アジアブロックの企画・編集・査読等を粉体技術談話会に委嘱すると共に、欧米の編集委員会の協力を得ながら進めていく予定である。

IV. 年報の発行

① 予算額 50 万円

② 趣旨・内容

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果を公表するために発行される。年報は以下の内容を含む。

- (1) 理事長挨拶
- (2) 事業内容と実施状況の概要
- (3) 役員等名簿
- (4) 助成・表彰事業
- (5) 研究成果等の報告

以 上